

第8回静岡県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議について

(健康福祉部医療局)

1 要旨

令和2年11月30日、「第8回静岡県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」を開催し、患者の発生や入院等の状況について報告するとともに、現在の患者やクラスターの発生状況から、静岡県新型コロナウイルス感染症対策本部への提言を行う、静岡県新型コロナウイルス感染症医療専門家会議への提言を取りまとめた。

2 議事内容

(1) 県内の患者発生状況や感染状況について

	指標	11月13日	11月20日	11月27日 (対応する指標)	
県 感 染 流 行 期	1週間の新規感染者数(人口10万人あたり)	116人 (3.19)	249人 (6.84)	338人 (9.29)	感染まん延期中期
	1週間の感染経路不明者数	26人	82人	116人	-
	感染経路不明の感染者率	22.4%	32.9%	34.3%	感染移行期前期
	PCR等検査陽性率	5.4%	7.5%	9.4%	感染まん延期中期
	クラスター発生状況	4件	7件	5件	-
国	病床の占有率	13.6%	17.8%	31.0%	ステージⅢ

ア 県の感染流行期

→ 新規感染者数が多く、PCR等検査陽性率が高いため「感染まん延期中期」

イ 国分科会ステージ

病床占有率は直近で31.0%とステージⅢの目安25%を超えている。

→ 感染は収束していないものの、ギリギリステージⅡに留まっている。

【委員御意見】

- ・地域によっては重症者用の病床がひっ迫し、これ以上の患者は受入れできない
- ・高齢者は認知症や身体的介助が必要となる場合、軽症者と比べ看護師に負荷がかかる
- ・特に介護施設でクラスターが発生すると、医療機関で受入れができず、施設で継続して見てもらうことになるが、感染リスクが懸念される
- ・コロナの治療が終了した高齢者については、風評被害から元の施設での受け入れや他院への転院が認められない傾向にあるため、受け入れの周知を要請したい

(2) 静岡県新型コロナウイルス感染症医療専門家会議への提言について

10月末より新型コロナ患者数が急速に著しく増加したこと、加えて高齢者の患者が増加し、県内の新型コロナ受入病床の状況は非常に厳しいものとなっている。

受入医療機関からの声として、認知症などケアの負担が大きい患者の割合が増えたため人手不足が生じていること、院内感染発生時の世間からの厳しい目がつらいこと、感染性が無くなっても新型コロナ罹患者ということで他施設への転院ができないことなどが問題となっている。

これらを踏まえて、12月2日に開催される静岡県新型コロナウイルス感染症医療専門家会議への提言を以下のとおり取りまとめる。

1. 新型コロナ患者受入医療機関の拡大及び更なる病床確保
2. 新型コロナ患者受入医療機関の機能分担（軽症・中等症・重症患者、認知症合併等）
3. 新型コロナ患者受入医療機関への人的支援（特に看護師）の推進
4. 院内感染が発生した医療機関で診療機能を周辺医療機関で代替
5. 高齢者や基礎疾患のある新型コロナ患者でも、無症状や軽症で医師が入院の必要が無いと判断した場合は、ホテルや自宅での療養を実施
6. 感染性が無くなった新型コロナ患者の後方病院や介護施設等での受入推進
7. 福祉施設で新型コロナ患者が発生した場合の従事者の支援体制の整備
8. 福祉施設でクラスターが発生した際の医療スタッフ派遣による施設内療養の体制整備
9. 自宅療養者が症状悪化した場合の診療体制の確保
10. 自宅療養者の増加による保健所の健康チェックの負担軽減の取組